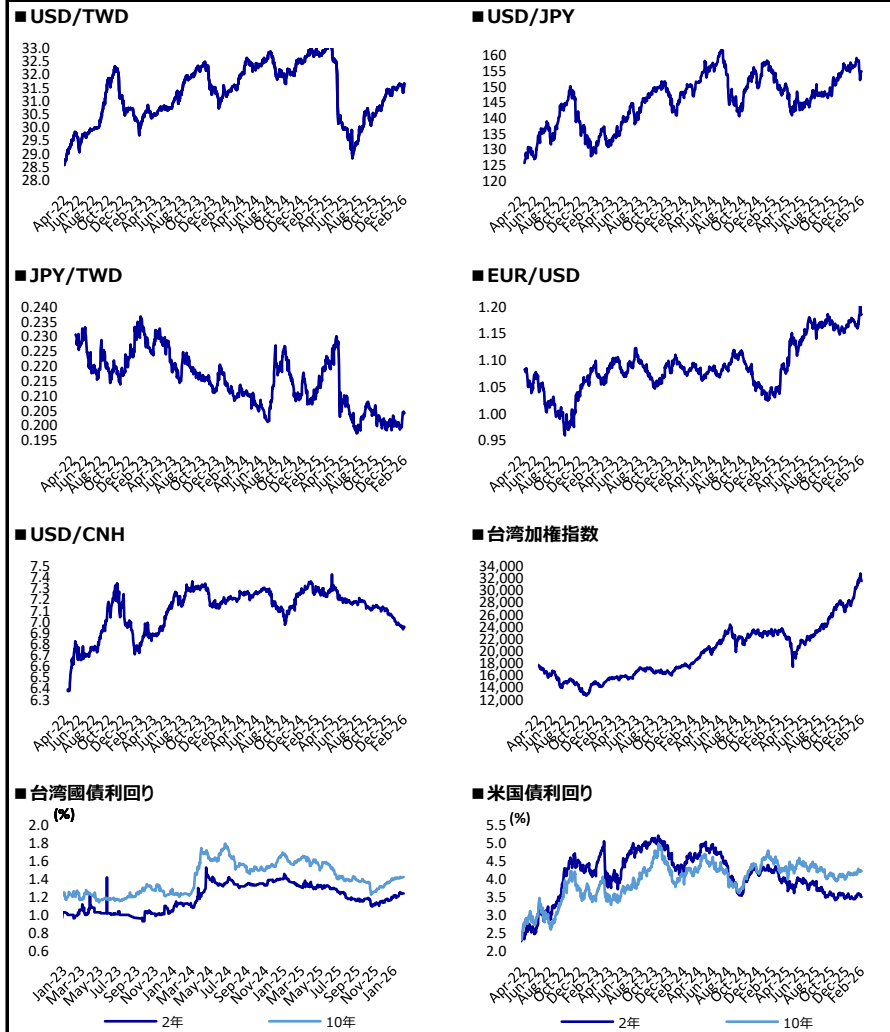


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のUSD/TWDは小幅下落。週初26日、USD/TWDは31.500でオープン。その後、円が154円台まで急騰したことでアジア通貨全般が上昇し、一時31.410まで下落したが、下値では政府系ファンドや生命保険会社、輸入業者などが押し目買いでドルを買い支えたため、31.508で終了。27日には米金利の低下と台湾株式の上昇を受け、海外投資家の資金流入がさらに強まり、一時31.400をつけた。下値で生命保険会社によるドル買いが入ったため、31.470で終了。28日には国際的なドル安加えて午後には海外投資家による株の買い越し額の拡大が公開され、一時31.282まで下落。引け際に中央銀行の調節で31.320で終了。29日の午後には台湾株式市場が低く引けたものの、海外投資家による株の買い越しが持続し、直近一ヶ月の最安値となる31.270まで下落。引け際に中央銀行が調節に入り、31.327で終了。30日には31.360でオープン後、世界的に米ドル需要が強まる月末であるタイミングであることから、午後にはUSD/TWDの上昇展開が続く、最終的に31.468、前週比0.34%安でクローズ。先週、海外投資家は台湾株を174.8億台湾ドル買い越した。

■ USD/JPY
先週のUSD/JPYは下落展開。週初26日は155.50でオープン。日米協調介入への警戒感が広がる中、154ちようどを挟んでもみ合う展開になった。27日、実需のドル買いや日本株の堅調推移を支えに、154台後半に続伸。海外時間は、本邦政府高官による円安けん制発言や米1月コンファレンスボード消費者信頼感の軟調な結果に加え、トランプ米大統領によるドル安容認発言などが重なって、2025年10月29日以来の安値となる152.10まで続落した。28日にはドルの買い戻しを受け一時153に乘せるも、その後は152台後半に続落。海外時間は、ベッセント米財務長官によるドル売り介入否定発言を受け153台後半まで急伸。その後FOMCは利下げを見送るも、声明文修正がタカ派的と解釈され、一時154台に乘せる場面も見られた。29日、153台前半を中心にもみ合う展開。海外時間は、材料出尽くし感も漂う中で、153ちようどを挟んだレンジに推移。30日、月末かつ十五日でドル買い活況となりUSD/JPYは上昇し、海外時間には米12月PPIが予想を上回ったことや、トランプ米大統領が次期FRB議長にウォーシ元理事を示した事を受け、米金利の上昇を背景に154.70付近まで上昇、最終的に154.78、前週比0.61%安でクローズ。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.400-800
今週のUSD/TWDは強含みの展開を予想。米財務長官が強いドル政策を強調したことや、トランプ米大統領が次期FRB議長にウォーシ元理事を示した事でドル高となるように見える。一方、直近の株式市場が反落したことで、外国人投資家による売り越しが進み、台湾ドルの重石となる可能性がある。USD/TWDは強含みの展開が予想。

■ USD/JPY 予想レンジ：152.00-157.00
今週のUSD/JPYは強含みの展開を予想。トランプ米大統領が次期FRB議長にウォーシ元理事を示した事で、先行きの不透明感が後退し、ドル買いと見られる。また、8日の衆議院選挙に注目が集まる。市場予想通りに与党過半数超えがとなれば財政拡張懸念から円売りトレンドの再燃が予想され、円安が進行する可能性がある。USD/JPYは強含みの展開が予想。

今週の予定

2/2 (MON)	米国・日本・台湾1月製造業PMI
2/3 (TUE)	米国12月求人労働異動調査
2/4 (WED)	米国/日本1月サービス業PMI
2/5 (THU)	米国新規失業金申請件数
2/6 (FRI)	米国1月雇用統計・米国2月ミシガン大学消費者マインド

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。